



## 三宅伸吾

自民党 新聞出版局長  
参議院 外交防衛委員会 筆頭理事

令和3年の新春を迎え、「国政報告⑩」をお届けします<sup>1</sup>。

昨年新型コロナウイルス感染症の「不確実性」に世界が揺れた1年でした。似た言葉に「リスク」があります。何が違うのでしょうか。リスクはいわば損失の度合いが事前に想定できるのに比べ、「不確実性」はそれが不明な状態です<sup>2</sup>。

感染がどこまで拡大するのかが分からないコロナ禍はこの不確実性の典型。ようやく欧米で感染予防のためのワクチン接種がスタートしました<sup>3</sup>。国内でも近く始まることを見込まれます。ワクチン接種による予防効果により、一刻も早く「不確実性」が消えることを強く期待します。



さて、菅政権が発足した2020年秋の臨時国会では参議院・外交防衛委員会の筆頭理事に就任。日英包括的経済連携協定を国会承認することができました。英国のEU（欧州連合）からの離脱に伴い、日英間の個別の協定がないと

<sup>1</sup> <http://www.miyakeshingo.net/news/entry-610.html>

<sup>2</sup> 例えば袋Aには赤色と黒色の玉がそれぞれ5個入っています。一方、袋Bにも玉が10個入っていますが、赤玉と黒玉の数は不明です。100円支払って、袋Aから玉を1個取り出し、赤なら300円もらえるゲームなら、やりたい人がいるはずですが、袋Bならどうでしょう？袋Aのように確率が分かっている状態を「リスク」とするならば、袋Bのように赤玉がゼロ個かもしれない、確率が読めない状態が「不確実性」です。

<sup>3</sup> 写真：米デラウェア州ニューアークの医療機関で新型コロナウイルスワクチンの接種を受けるジョー・バイデン氏（2020年12月21日）(c)Alex Edelman / AFP

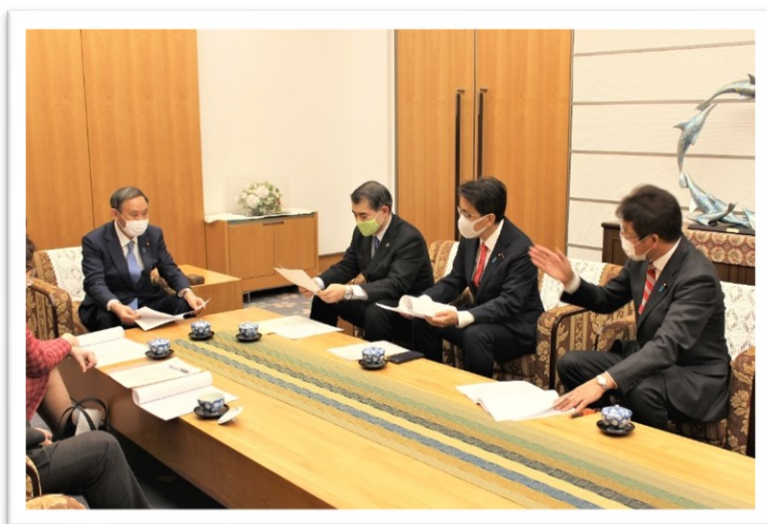
両国の貿易に多大な悪影響が出ます。厳しい国会日程でしたので、慎重な委員会運営に徹しました。無事に承認でき、胸をなでおろしています。

年末恒例の税制改正論議では「経済危機の時代に増税なし」を最低ラインとして、自民党の政務調査会や税制調査会などでの議論に臨みました。自動車課税、サービス付き高齢者住宅、研究開発、企業のM&A促進、鉄道、造船・フェリーの海事分野などで、経済環境にあった税制を熱く訴えました。予算編成では介護報酬や公共交通の支援拡充などの要望のため、所管の大臣室を駆け回りました。

また、私の発案で党内に「出入国管理業務の適正運用を支援する議員連盟」を旗揚げしました。外国人との広範囲の共生が、我が国の経済発展や文化の深化には欠かせません。出入国在留管理庁が外国人との共生社会実現の要の一つです。



議員連盟として、その体制強化を菅義偉総理や麻生太郎財務大臣に求め<sup>4</sup>、入国審査官の大幅増員などを実現しました。



<sup>4</sup> <http://www.miyakeshingo.net/activityreport/> (2020年11月)

党内で、まさに口角泡を飛ばす激論となった選択的夫婦別姓問題では<sup>5</sup>、賛成派議員を糾合し、所管の橋本聖子大臣らに早期導入を求めました<sup>6</sup>。ただ、一部の同僚議員には反対論も根強く、政府が12月25日閣議決定した方針では、「夫婦の氏に関する具体的な制度の在り方に関し」「更なる検討を進める」との記述にとどまりました。残念でなりません。



<sup>5</sup> 制度の概要など：<http://www.moj.go.jp/MINJI/minji36.html>

<sup>6</sup> 関連ニュースなど：<https://www.sankei.com/politics/news/201124/plr2011240033-n1.html> <http://www.miyakeshingo.net/activityreport/> (2020年12月)

夫婦同姓を強制する国は我が国だけのようです。この問題を巡っては、最高裁大法廷で2021年夏にも司法の判断が出ることが見込まれています。司法判断を待たず、導入への道筋をつけるのが政治の務めだと考えます。



さて、昨年秋、地元香川は鳥インフルエンザにも襲われ、三豊市の現地対策本部にも足を運びました。昼夜を徹し、感染抑止の作業を担われた自治体職員はじめ自衛官などすべての皆さまのご尽力に心より敬意と感謝を表します。また、鶏卵、鳥肉業界への打撃も甚大で、一刻も早い完全収束と事業回復への支援策が必要です。

不確実性に染まった2020年。多くの方々に支えられ、政治活動をすることができました。心より御礼申し上げます。さらに精進を重ね、2021年には更にアクセルを踏み込む所存です。

自民党の新聞出版局長として手掛けた機関紙「自由民主」新春号は、「コロナを乗り越え、凜としたニッポン」です。新しい年には希望の光が差し込むよう尽力致します。

